

光栄の森

2020年4月 第140号 毎月1日発行
発行者 光栄プロテック 中川

4月に向けて

代表取締役 三田雅憲

いよいよ4月を目の前にして、春の訪れを感じる今日この頃です。

3月には、当社会長道下の永眠があり、7日に通夜、8日は告別式がありました。社員にとっては8日が最後のお別れになりました。道下会長は社員のことを思い厳しくも暖かく皆を導いてくれました。引退後の晩年は穏やかに孫と散歩へ出かけたりして厳しく大変であった人生の締めくくりは平穏であったのではないかと思います。

M工業のS社長より弔辞を頂き、お客様からも一目おいて頂いていたことを感じうれしく思いました。

兄弟弟子が1人また1人と亡くなっていき、お付き合いしていた方々も同様に鬼籍に入られて後年は寂しい部分もあったと思いますが、どんな時にも逃げずに男気強く小さい体で立ち向かっていった姿が本当に思い出されます。

リーマンショックか何かの時に仕事が激減し、私もどうしていったら良いか分からなくなり、当時社長だった道下に「第二工場を売却でもして商売を整理しましょうか」と進言した際に、即座に「去りたいなら去れオレは一人でも頑張るから」と鬼の形相で否定した時に、この仕事に命を懸けていると感じました。思い通りにならず人も抜けていった時期もありましたが、最後まで信念を曲げずに経営されてきたので今の光栄プロテックがあると思うのです。

新型コロナの騒ぎがあり、結果、延期にはなりましたが、光栄プロテックの創業50周年を共に祝ってやろうという方々がたくさんおられ、心よりお客様より愛されている会社であることを改めて感じました。この道下が築いてきた50年の歴史の重さをこれからの光栄プロテックを背負っていく諸君に伝えることがこれからの私の仕事であると思いません。

4月は新しい当社35期目になります。この期は新型コロナや世界経済の混迷で大変不透明になっております。そういった中であって堅実で誠意ある仕事を和を持って積み上げることで必ず良い方向に行くと思存します。

又、4月には本社の食堂である「光栄の森ダイニング」がスタートを切ります。「慎ましくも皆さんに健康的でバランスの取れた食事をとってもらいたい」との思いからこのプロジェクトはスタートしました。慣れないことも多くありますが、食堂のパートさんたちもこの私の気持ちを踏まえてやってもらえると信じております。どうか楽しみにしててください。千葉にも何年か先に導入できればと考えております。

今期後半からもしくは来期前半はこの新型コロナウイルスの影響がポディーブローのように建築業にも効いてくると存じます。社員皆さまには堅実に堅実に今後仕事を進めてもらいたいと思存します。